

令和6年度 第1回岩見沢市総合戦略等推進委員会 議事録（要旨）

● 日時、出席者等

日時	令和6年12月23日（月）15時00分～16時30分
会場	岩見沢市役所4階 委員会室1・2
出席委員等	委員10名、特別委員2名
傍聴者	0名
事務局等	事務局21名

● 議事録（要旨）

会 議 次 第	協 議 内 容
1 開会	（事務局） ただ今から令和6年度第1回岩見沢市総合戦略等推進委員会を開催させていただきます。
2 委嘱状交付	（事務局） 委員に変更がございましたので、ご報告をさせていただきます。 まず、岩見沢市観光協会専務理事石川様の後任としまして、会長の仁志正樹様になります。それからいわみざわ農業協同組合常務理事遠藤様の後任として、常務理事の亀谷章様になります。岩見沢社会福祉協議会事務局長出口様の後任として、事務局次長の佐々木康光様でございます。お三方にそれぞれ後任を引受けいただいております。 また、当委員会では、専門のお立場からご意見をいただく特別委員を設けており、そのうちのお一方として空知総合振興局地域創生部長小本様の後任として伊藤洋史様にお引き受けいただいておりますので、よろしく願いいたします。 新たに選任されました仁志様、亀谷様、佐々木様の委員3名の方に委嘱状の交付をさせていただきます。恐れ入りますが、お名前をお呼びいたしますので、その場でご起立いただきまして委嘱状を受け取っていただきます。 【委嘱状交付】 （事務局） 以上で委嘱状の交付を終了させていただきます。 次に、本日の出欠でございますけれども、平瀬委員、前野委員、関委員の3名と、星野特別委員の合わせて4名から欠席のご連絡をいただいております。

3 企画財政部長挨拶	なお、特別委員の鈴木様におかれましては、本日オンラインでご参加いただいておりますので、よろしくお願いいたします。 それでは、開会にあたりまして、企画財政部長の小泉より一言ご挨拶を申し上げます。 (企画財政部長) 本日は、時節柄何かとお忙しい中、また、連日の大雪、私も含めまして皆さん大変お疲れのところかと思えます。そういった中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。本年の4月から第3期総合戦略がスタートしております。 昨年度、何回かこの委員会、開催させていただきまして、その策定に際し委員の皆様から貴重なご意見を賜りましたこと、まずは厚く御礼を申し上げます。 さて、総合戦略、国の地方創生というところからほぼ10年ということで、節目を迎えようとしております。そういった中、国におきましては、内閣も変わりまして、自治体による創意工夫に溢れたこれまでの主体的な取り組みを、大きな成果であると、そういった評価をいただく一方、国が十分に後押しをしてこられなかったという点については、改善の余地がある、このような総括をしております、石破内閣のもと、10月には新しい地方経済生活環境創生本部が設置されるなど、地方創生を取り巻く環境、大きな転換期を迎えているところでございます。 当市におきましても、こうした国の動向を注視しながら、第3期総合戦略の目指す方向性のもと、引き続き取り組みを推進強化してまいりたいと考えているところでございます。 そういった中、本日でございますが、昨年度をもって1年前倒しで終了となりました第2期の総合戦略の総括、人口動態あるいは重要業績評価指標、KPI、こういったことについてご報告、総括させていただくほか、今年度からの第3期戦略における取り組みについて取り上げさせていただきますと考えております。 これまでもそうですが、総合戦略、これまでのものも含め、これからの岩見沢市のまちづくり、地方創生にとりまして非常に重要な取り組みとなっております。 本日は、委員の皆様から率直なご意見、活発なご意見をいただきまして、私どもも、それにしっかりと答えるという形で、進めさせていただければと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会にあたりましてご挨拶させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。 (事務局)
-------------------	---

(事務局)

直接どの事業が効いたという分析までは取っておりませんが、社会動態の動きの大きな要因の1つとして、14歳以下の子どもの転入、それからその親世代の転入、これが社会動態推移において社会増の方にシフトしてるところがあります。

そういったことを踏まえますと、市が先駆的に取り組んできたこども子育て施策。それを中心としてバランスよくやってきた、そういったことも要因に繋がってるかと考えています。

(特別委員)

その辺が今後の計画を立てる上で非常に重要な観点になってくるかと思しますので、引き続き政策の効果等を色々と検討いただけるとありがたいと思います。

(委員)

4ページの合計特殊出生率について、北海道の出生率が低いのは、一般的な分析としては、非正規雇用が低いとか経済不安があるとか、仕事と家庭の両立が進んでいないとか、色々分析がなされてると思いますが、岩見沢市ならではの出生率の低さの分析はあるんでしょうか。

(事務局)

岩見沢市は、過去から傾向として、20代の若者の札幌への転出があります。特に女性の転出というのが大きいと考えてます。札幌近郊のまちは総じてそのような傾向が出ていて、例えば北見や室蘭のような出生率が高いまちは、20代の女性の転出がかなり抑制されてるという傾向があるので、そういったところを比較すると、岩見沢市や札幌近郊のまちについては、立地として札幌に近いという部分もありますが、そういう傾向があるという風に思っております。

(委員)

やはり20代の女性の転出を抑えていくということが、今後のこの出生率の低さを改善するということに繋がっていくということになりますか。

(事務局)

女性100人に対する男性の人口の割合というのも少し低めに出ているので、札幌近隣のまちは。男女バランス良く若年層世代の流出を防いでいくことが重要と考えています。

	(委員) 社会増減の減少が KPI 275 人を令和 5 年度は 220 人ということで初めてクリアしたということで、どういうことで 14 歳以下の転入の方が増えたんでしょうか。 (事務局) 具体的にこういったものから効いているという分析を取ったわけではないので、何が効いてるとお答えすることは難しいところはあるんですが、令和 2 年からの社会動態を見てると、14 歳以下の子どもとその親世代の転入が抑制されてきていて、教育のことであったり、子育てのことであったり、そういったものが繋がっていると考えています。 (委員) 転勤で来られたのか、岩見沢市を選んで引越してこられたとか、その辺が結構キーになってくると思いました。 (委員) そこを今後分析することについては何か方向性があるんでしょうか。転出と転入のバランスがある程度抑制された要因を分析するということを今後考えているのかどうか。 (事務局) 社会動態の要因というのは 1 つ捉えなければいけないところとは認識しております。ただ、入ってくる一人一人、例えば転入受付の時に、実際どういったことで入ってきたんですかって調査をするような形しか多分取れないと思います。今後どう捉えていくのがいいのかというのは、これから研究させていただきたいと考えています。 (委員) データの取り方は色々テクニカルな部分で難しいところあるのかもしれませんが、多分それをやっていかないと、戦略を練る上で、それが何か偶発的に起こっていることなのか、何か岩見沢を選んでもらえているようなエッセンスがあるのであればそこを注力していくとかという戦略が見えてくると思います。今後、継続的にそれがあがる程度分かるような方向性で調査をしていただけると次の戦略を練る情報になるかなと思いますので、よろしくお願いいたします。 (事務局)
--	--

令和6年度市民アンケート調査の中で、ここ数年で転入してきた人に対して、どういったことで岩見沢に入ってきましたかという項目もありますので、そこを今後分析した中で、お伝えできるところはお伝えしたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(委員)

子どもの数が少ないから、出ていく数が少なくなったように見えます。根本的には子どもが生まれてないことが1番問題で、なぜ子どもが生まれてないのかというと、結婚する人が少ないから。いろんなところで話を聞いたら、やはり今の世の中の結婚するメリットとか、子どもを持つメリットとかというのは少なく、岩見沢にいる若者は、実家にいて、地元の中小企業で働いて、それで満足しているのではないかと。実家にいるからご飯も住むところも当たるし。調査をしないと実態はわからないと思うんですけど。イメージ的な部分だけで言ったら、岩見沢は学校の数がそこそこあって、大学もあって、高校の数もあるということで、岩見沢出身じゃなくても道職員が結構家を建てて、子どもを育てるという、結構そういうパターンがあると思うので、一生懸命考えるのは、子どもを育てられる環境で、それと賃金あげること。一人暮らしを促進させる。そちらの方の施策を大胆にやった方がいいと思います。賃金上げことはもちろんで、実家が岩見沢だけ家を借り、独り立ちするんだっていう人に対して、何か5千円でも1万円でも家賃補助するとか。そういうようなことをやった方が、人口が増える起爆剤になるかもしれないという、そういうご提案をしたいなと思います。

(事務局)

出生率の低下、出生数の減少につきましては、婚姻という1つのライフイベントが減ってきているというのももちろんあります。全国的にも言われていますけれども、経済的なこともあれば、生活のこともあり、複合的な要因ということで、1つ何かやったからといって解決するものではないと思っています。これに関しては、1自治体でどうできるというのも、かなり限度があると思っています。今、国の方で、異次元の少子化対策という形で色々手は打っていますけれども、なかなか回復してきていない状態です。岩見沢市としては、すでに北大COIと連携したりと、やってきているところもありますので、引き続き、いろんなことに取り組んでまいりたいと考えております。

(会長)

この部分については一度終了させていただきたいと思います。次に、基本目標の1と2について説明をお願いいたします。

	【事務局から説明】 (会長) 基本目標の１と２の説明がありました。皆さんからご意見、ご質問を いただきたいと思います (委員) 例えば８ページの 人材育成と活躍推進事業のところ達成とおっしゃ られたと思うんですけど、目標値が４００人で実績が３６６人で達成と おっしゃったんです。これ、私の方で表の見方間違ってるんでしょうか。 (事務局) 目標値、当初計画では５年間の総合戦略を予定して合計４００人とい うことだったんですが、１年前倒しで策定して４年間となっております。 ４年間にすると、１年あたり８０人となり４年で３２０人ということで ４年間の時点では合計値を上回っているというような見方で達成と考 えているところでございます。 (委員) ５ページの基本目標１のところの、総所得にしても労働生産性の付加 価値額にしても、おそらく基準値のところから考えると、最低賃金が上 がっていますので、何もしなくても 基本的に最低賃金が上がる分は数値 も上がるはずですが、そういう制度的なものの変数などを加味して分析 しないと、実態がよくわからないと思います。こういう数字の抽出の仕 方はいかがですか。 (事務局) 統計調査をもとに比較してございますが、先ほどおっしゃられたよう な、最低賃金の部分の角度からの分析は、まだ行っていないところです。 (委員) 例えばこういう賃金分析などは、最低賃金のことを考慮して分析して いただきたいと考えていますのでよろしくお願いします。 もう１点、６ページの創業のところなんですけれども、これは令和２ 年から５年まで４年間の創業者の数字を足して３６人になってますけれ ど、この中で、今現在も商売続けられている方の数は何人ぐらいですか。 (事業担当者)
--	--

	創業者の中で、休業という形で続けない方が1名いて、それ以外は継続していると把握しております。 (委員) 10ページの観光振興戦略推進事業のことですけど、実績の86万人は、イベントを除いて86万人が岩見沢にいらっしゃるということの考え方で間違いないでしょうか。 (事業担当者) 観光入込客数の話ですが、あくまでも百餅祭り、彩花祭り、ドカ雪祭りとか。そのようなイベントを抜かした人数でございます。 (委員) 86万人の観光客はどこにいらしているのだろうか。人の流れのデータというのはどのように取られてるのかなと思ってお聞きしました。 (事業担当者) 四半期ごとに主な観光施設に調査票を送りまして集計しております。例えば、大きいところで申しますと、グリーンランド、市内の6つの宿泊施設、メープルロッジ、いわみざわ公園、バラ園、キャンプ場とか、屋内、屋外も含めた観光施設を集計しております。 (委員) 外国人の宿泊客数880人は、どこの国の方がいらしているというデータがあるのでしょうか。この86万人と外国人。今後こういった対策、インバウンドで外国人は、すごいお金を落としてくれると思うので。この間、岩内町の方と話したら、岩内町のスキー場では1人15万円のプランも外国人向けのプランがあると聞きました。パウダースノーを滑らせてランチとか食べさせるプランで15万円、家族で貸し切り200万円と言ってたので。そういうのでお金を儲けられるんじゃないかと。インバウンドで。こういった経済効果はどれぐらいだったというデータはあるのでしょうか。 (事業担当者) インバウンドの経済効果に関しましては、分析データございません。880人の内訳ですが、今年度の数字では、韓国からの旅行客が大多数を占めていまして、674人。こちらはホテルサンプラザにおいて韓国からのゴルフ客を中心としたツアーを確保したことにより大幅な増となっております。以上です。
--	---

(委員)

観光の方なんですけれども、これは岩見沢市の数字しか出てませんが、例えば、空知の近隣の市町村のこの入込数とか、その辺との比較はできないものでしょうか。観光もやはり面的に捉えていかないと。私たちはここに住んでますけど、観光客は、南空知それから札幌圏、色々近郊を合わせて観光を考えていると思います。その中で、例えば岩見沢市の数字が低いのであれば、どうして低いのかとか、そこの分析が重要になってくるのではないかと思います。合計出生率は全国・道の数字がありますけど、他はほとんど岩見沢の数字なので、ちょっと比較して考えにくい資料になっているというのが全体的にあります。時間をかけて議論すべきところなのに、あまりにも時間がない中で議論するというのは非常に無理があると思います。今後、やはりきちっと検証していくのであれば、もっと早く資料をいただいて議論の準備をさせていただかないと、せっかく皆さん貴重な時間集まって議論してるのになかなか身が結ばないと思うんですけども、そこら辺も含めていかがでしょうか。

(事務局)

会議の開催、資料の送付が遅くなったことについてはお詫びを申し上げます。次年度以降、時間の余裕を持った状態でお示しできればと思います。他の近隣市町との比較については、他のまちがどうなんだろう、果たしてこの数字はいいのか悪いのかというのは、比較が必要だというのは間違いなく思います。今回はあくまでも岩見沢市のKPIの進捗状況の報告ということなので、岩見沢市だけの数字を載せさせていただいてますが、その他のまちの比較を全部網羅するとかかなりのボリュームになりますので、そこをどう見せるのがいいのかということも踏まえて、少し研究させていただければと思います。

(委員)

この総括のところで、KPIがなぜ達成できたのか、達成できなかったのかというところについては抑えてますでしょうか。

(事務局)

まず、基本目標1の全体の目標のKPI実績とありますけれども、こちらについては、統計調査の方からデータを取っておりますが、例えば課税状況でしたら、課税標準額の段階ごとの人数を見ながら、分析を行っているところなんです。総所得については、その収入の低い層が人数が減って、わりと中盤にあたる200万円～300万円の課税標準額の段階の方が増えているとか、そういった分析は行っておりますが、個別に

	どういった業種かというところまでは抑えていないので、分析の中にも濃淡があるような形になっております。 (委員) KPI だけ見れば達成してるしてないとわかるんですけど、なんで達成したか、なんでできなかったのかというのを細分化して原因を突き詰めないで、この事業で達成した、しなかったというだけの指標だとあまり評価にはならないと思います。全ての事業に対して、なぜ達成できたのか、 どういう部分が効果があったのかというのを分析してもらわないと、因果関係がわからないので、逆に言えば KPI の設定方法が、それが正しいかどうかという議論にもなってしまう。この実績で達成したしてないの下欄に、こういうことが考えられるというか、分析の結果こういうことが関与して KPI 整理できたというような形で記載をしていただきたいと思います。 (事務局) 各事業に関するその KPI の達成未達成の要因は各部門で抑えてはおりますけれども、来年度以降、お示しの仕方を検討したいと考えております。 (特別委員) 11 ページの移住定住促進事業のように、これは非常にいい施策だと思うんですが、予算の都合上なのか、実績が残念ながら目標値に達していないという部分は、特に重要なのかなと思います。この辺りも含めて、なぜうまく達成できてなかったのか、あるいは達成するためには何を改善しなければならないのかというのは、非常に重要だと思いますので、先ほどの議論にもあったんですけど、理由等を分析して、次の戦略策定に活かすには、やっぱりレビューをした上で、理由は何だったのかというのは、非常に重要な観点だと思いますので、ぜひ今後検討いただけるとありがたいと思います。岩見沢に住みながら東京の仕事をうまくやるみたいな。そんなことも岩見沢ではこれからできるようになると思いますので、ぜひ新しい働き方も含めて、岩見沢で色々と検討いただけるとありがたいと思います。 (会長) はい、ありがとうございます。あと皆さんからいかがですか。そろそろ次のところに行きたいと思います。 事業目標の3と4について説明をお願いいたします。
--	---

	【事務局から説明】 (会長) ただいま3と4について事例がありました。皆さんからご質問、ご意見をいただきたいと思います。どうぞ。 (委員) 先ほどの合計特殊出生率のところで、岩見沢市の出生率が低いのは、主に20代の転出が多いからというお話があったんですけど、そのことの対策は、どのあたりの戦略に関わっているのでしょうか。これに関連して、岩見沢市に学校に行けないまでもないんだけど、やっぱり心の病を抱えていて、なかなか人とコミュニケーションを取るのが難しいとか、そのうち潜在的に不登校になってしまいそうな中高生が多いという話も聞いて、15歳、中学生までは、教育支援センターなどがあるから、サポートを受けられるんだけど、16歳から20歳ぐらいまでの子どもたち、青年たちをサポートする行政の機関がないって。札幌だと例えば若者支援センターがあるから、そこに行くと心の病を抱えた子たちの相談を受けてくれるんですけど、岩見沢市はその若い子の支援がないなんて話を聞いたもので。でもそれは私が勉強不足であるのかもしれないと思って、そこをお伺いしたいです。 (事務局) まず1点目の、特に岩見沢の傾向として、高校卒業と短大、大学のタイミングでの転出がやっぱり非常に多くなっています。例えば、高校卒業して大学進学で離れる、専門学校、就職で離れるという形で、どうしても10代後半から20代前半の男女の転出が多くなっています。これはやはり札幌という大都市が近いので、そこにブレーキをかけるのはなかなか難しいです。そこを抑えるというところでいくと、まずは、この戦略全般的な話になると思うんですけども、岩見沢は住みよいまち、いいまちですよと認識してもらおうということも当然あります。この戦略のどこということではないんですけども、そういった戦略全般の流れとして、まちに磨きをかけていくことが必要だと。加えて、出ていったとしても戻ってきてくれるのが1番大きな話ですから、そこに注力して、子育て支援とか、そういったところにターゲットを絞っているというのは1つあると思ってます。 (事業担当者) 教育支援センターについては、市内に在住してしましたら、高校生であっても相談を受けております。参考までに、令和5年度相談件数は千
--	--

件を超えてまして、高校生からの相談も94件ということで、相談には乗らせていただいています。登校支援室みらいもあります、そこでも高校生にご利用いただいています。例えばですが、札幌市に通ってる子どもであっても、岩見沢に住所があれば支援センターを利用していただいています。

(委員)

わかりました。先ほど、全体的なことで若者が出ないようにとか戻ってくるようになっておっしゃってたんですけど、原因がはっきりしてて、20代の女性が出ていかにないようにしなきゃいけないとわかってたら、もうプロモーションも20代の若者向けとか、目標をそこに定めた方がいいような気がしています。出ていかにないようにまちの中に仕事を作るとか、素敵な場所を作るだとか、そういったことで具体的に進めていかないと、どんどん人口が減ってしまう気がしています。以上です。

(会長)

はい。大変貴重な意見だと思いますけども、他にいかがですか。

PR不足もあって利用がしづらいというか、利用していない人が多分結構いるんだと思います。

(委員)

結局ここに出てる数字というのは1つの数字としての結果でしかないもので、この数字をずっと見ても意見を出しづらいですね。やはりそれは結果に対して何らかの分析があって、その分析に対する考察があった上で、そのものが見えていれば我々も議論する素材というのがあるんですけども、この数字だけこういう結果でしたというのを見ても、なかなか意見質問も含めてですけども、非常にしづらいです。

(事務局)

ありがとうございます。確かに先ほどからご指摘いただいている通り、個別に分析はとっていますけれども、総括的なところもあって、その部分については記載が足りなかったということにつきましては、次回の資料の中では用意させていただきたいと思います。

(会長)

各関係部署で分析をつけていただいて企画室に繋げていくというような手法を取らないと、企画室だけで頑張ったって、なかなか難しいだろうと思います。ぜひ次回の中ではこういったところもクリアをしてくるようお願いをしたいと思います。その他、いかがですか。

(2) 第3期総合戦略の取組みについて	それでは、今、一応、3と4については質疑を終了させていただいてもよろしいでしょうか。 (会長) 続きまして協議事項(2)の第3期総合戦略の取組みについて説明をお願いいたします。 【事務局から説明】 (会長) 今後のことについて今説明がありました。そのことについてご質問、ご意見があればいきたいと思います。 (委員) 次の会議の予定はありますか。 (事務局) 年度内の会議の開催は特に検討しておりませんが、今年度は国の交付金が令和6年度で終了することを踏まえて、令和7年度の登載事業を検討してるところです。 (事務局) 事業の見直しもそうですが、国の動きがまだ具体的なものが現時点では見えていない状態です。年内には石破内閣の方で今後の考え方まで示すと言われておりますので、国の動きに応じて、必要があればお話しする場を作ることも検討したいと思います。 (委員) ありがとうございます。開催時期によっては、皆さんからの意見とか出たものが反映されない時期の可能性はあるかなと思いましたのでお伺いしてみました。ありがとうございます。 (委員) 概略で構わないんですけども、この第2期総合戦略で国の交付金がいくらぐらい入ったというのは教えていただくことは可能なんでしょうか。 (事務局) 岩見沢市が受けてきた額は19ページの下段の方にのせております。
----------------------------	---

	基本的に3年スパンとなっていて、3年で事業が終わりと決まっていますので、今交付金を受けてるものは令和6年度で一旦終了する形になります。一方で新しい交付金の形も見えてきておりますので、今後の動きを見ながら、活用できるものは活用していく予定です。ただ、新しい交付金の金額等についてはまだ見えてませんので、今後の状況を見ながら検討という形になると思います。 (委員) ありがとうございます。国の交付金なかったらもうやめてしまうということではないですね。 (事務局) あくまでも行政としては、市の単費だけではなくて、国のお金をしっかり活用しながらやっていくことが収支に対して必要だと思ってます。一方で、必要な事業については、ダウンサイジングや見直しが必要になる部分もありますが、引き続きやっていく予定です。 (会長) 事業予算の関係で、例えば第2期の31億5,000万、それに対して交付金が4億5,000万。差額の部分は、要するに市の方の事業費というか、市の持ち出しということではないんですか。 (事務局) はい。国の交付金があって、それ以外のものは事業債や、交付税措置が当たったりするので、幾分か当然単費はありますけれど、必ずしも全部が持ち出しというわけではないです。 (委員) 岩見沢市というまちがより良くなるということに対しての戦略があって、もちろん交付金というもので支援してもらうことはとても大切なことだと思いますが、先ほどあったように選択と集中のような、昨年度までやってきたのでそれぞれ事業を縮小しなければいけないかもしれないけど来年度以降もやりましょうという話ではなく、これまでの色々な事業を客観的なデータから分析をし、何が有効性が高いのかというのを、焦点化した上で戦略を練ると。その戦略を練った後にこういうお金をどう工面するのかというのが議論の手順かと思うのですがいかがでしょうか。 (事務局)
--	--

まず、今年の2月に一度皆さんに集まっていたいて、その時に第3期総合戦略の策定のことも色々議論いただきました。総合戦略の中にどういった事業を載せる載せないですとか、皆さんにも色々ご意見をいただいて、4月から新たな戦略をスタートしています。当然ながら交付金が当たるから戦略を練るわけではなくて、第3期総合戦略をしっかり作った上で、その中で活用できるものは交付金を活用していくということで、交付金が先ではなくてあくまでも戦略が先となっていますので、ご理解ください。

(委員)

わかりました。いずれにしても今後の文脈の中で修正をしながら、より合理性の高いものに注力していくということは可能ということですね。そのためにこういう場があったり、議論を繰り返したりするということは、今後もあると考えていいってことですね。

(委員)

本当に多岐にわたり、総論的な形で全体に推進されてきた職員の皆さん、大変だなと思いながら、その中でKPIという形で数値を出していつて、ここは達成できた、達成できないということもありますが、もう少し協力し合ったら数字が上がったんじゃないのかなと思いました。選択と集中と言いますか、その部分をピンポイントに近いぐらいの形で注力していった方が、数値としても満足度としても、達成感が出てくるような気がしています。こっちもあっちもとやると満足度が得られないし、今後は予算的なことも含めるとさらに難しい部分もあると思います。これだけたくさん項目をされているのであれば、そういう観点で、観光含めて、データやいろんな情報を担当の課と共有しながら進めることができたのではということで、反省しています。その分でもう少しこれを絞ってみるのも1つの英断ではないのかなと思います。

(事務局)

実際に戦略自体もかなり絞っております。戦略の上には総合計画があり、そこには3桁以上の事業があつて。その中から絞って、戦略という形でいくつかの事業にまとめています。今のお話も踏まえて、今後、色々検討していきたいと考えております。

(特別委員)

北海道の方でも、総合戦略の見直しをしてる最中でして。先月の26日から道と振興局のホームページでパブリックコメントを実施しております。道の計画の場合、小さいお子さんにもわかりやすいような簡易版

のようなものを載せていただいたりとかして、少しでも幅広く道民の方のご意見をいただくという事で行ってます。それに合わせて北海道の人口ビジョンも変わっていて、ホームページに掲載しています。岩見沢市さんと同じように、社人研のデータとかも参考にしながら、今回、やはり出生率などが大きく乖離が生じていた関係もあって、見直しをしたところなんです。やはり北海道はその未婚、晩婚といったものが全国と比較しても、進んでしまっています。全国よりも低い出生率という状況になっている実態もあり、合計特殊出生率も東京に次いで2番目に低いというような状況になっております。核家族化でいくと全国でいっても4番目ぐらいです。いわゆる3世代で同居している世帯の割合が低いというようなことで、北海道だと約2.4パーセントですね、全国だと平均4.2パーセントなんですけども、それより1.8ポイントも下回ってるといったような状況もございまして、そういうところからも大変2050年、厳しい推定になってきております。

観光の部分で見ると、炭鉄港という取り組みに力を入れてやってるところですけども、これからインバウンドを獲得していく上で、人材の育成というのも非常に大事なと思っております。外国人の方にたくさん来ていただいても、受け入れる側の体制とかが整ってないとなかなか難しいということも考えておりまして、ガイド育成や観光ルートといった部分の、色々試験的なこともやらせていただいたり、微力ながら取り組んでいます。どうしても空知管内は札幌・小樽からも近いので、日帰りの観光客が非常に多いです。KPIの達成状況で、外国人、あくまで宿泊客数だと思いますので、そういった面からも880人ということかと思えます。日帰りの外国人の方も相当数いるのではないかなと見えるので、一概にどうこうっていうのもなかなか難しいのかなと思いました。

今後の、石破内閣での新しい地方経済生活環境創生交付金のお話がありましたけれども、金額や制度設計も、まだ国の方で検討しているような状況です。従来でいうデジタル田園都市国家構想交付金というのが移行するような形で、農林水産業や観光業の高付加価値化、買い物・医療などの日常生活サービスの維持向上、そういったものを準備されているということです。市町村の方には、随時情報が入れば提供していきたいと思ってるんですけども、今のところ考えられているのが、地方創生推進タイプと拠点整備のタイプを一本化するか、一本化した上で、第2世代交付金というような言い方をしています。加えてデジタル実装、地域防災の緊急整備、地域産業の構造インフラ整備推進など、こういったことを設けるということで、国の方で議論されています。細かい制度でいくと一体的な事業の申請を一本化したりだとか、審査基準の方も評価項目ごとの段階評価を廃止して、事業の目的、事業概要、自立性とかを総合的に審査するというようなことで聞いております。いずれにしても、

新しい地方創生の事業設計をしていく上では、今までだと産官学に加えて金、労、言ですね、あらゆる地域の分野、事業、多様な主体の方たちの参画をいただいて、制度設計というのが必要になってくるのかなと思います。随時我々も市役所さんの方には情報提供に努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(委員)

今回の各事業の中の構え、取り組み概要ということで、整理をされていますけれど、市役所の各部の中で取り組み概要の下に戦術的なものがあるんだろうなと思います。基本目標3のあそびの広場運営事業などは利用者を増やすためにどんな戦術、例えば市の広報に何回のせたとか市販されている広報媒体を利用したとか、宣伝した結果がこの数字になっているのかという部分までは、資料の中では私たちは見ることができないので、各部署の中で具体的に検討されて実施結果の部分だけを私たちが見せられているのかなと思います。助言や提案をさせていただける機会であるならば、もう少し具体的にどんなことをやってこの結果だったっていうところも見せていただけると、いろんなことが議論できると感じました。

(事務局)

資料をまとめる段階では、各担当課に調査を出していろんな項目を出してもらっています。こういう取り組みをしましたとか、こういう中身でしたというのはちょっとボリュームもあるんですが、今後の資料の示し方については研究させてもらえたらと思います。よろしくお願いします。

(委員)

社会福祉協議会というのは、地域福祉を進めていくと、発展させていくところで、メインは高齢者、障がいのある方、生活に困っている方、そういう方々をいかにサポートしていくかというところで日々色々考えています。戦略項目を見て、本当多岐にわたっていて、バランスよく、いろんなことをされているんですけども。先ほどもお話ありましたが、目玉になるものがわかりづらいというところがあると思います。市民の方に訴えかけるには、もっと具体的な目玉になる事業が1つ2つあるといいんじゃないかなと思った次第です。

(会長)

ありがとうございます。今後の計画的な話もありましたけど、全体を通して、最初のところから含めてということで、ご意見あるいはご質問

6 その他	があればいただきたいと思いますけどもいかがでしょうか。 色々、委員の方からの意見がございましたので、構造的な資料だとか、説明があると私たちももう少し色々な考え方もできるという話がありますので、そこらへんをできれば、次の委員会の時に前回の続きの部分としてやっていただければいいのかなと思うんですけども、事務局の皆様、いかがですか。ちょっと事務局には大変申し訳ないんですが、せっかく今日はこれだけ色々皆さん各部署から集まっていたいて、本当は今日の会議で終わりと考えてたんですけど、もう少しそこら辺をやっていたくことは可能でしょうか。 (事務局) ありがとうございます。確かに、第2期の総括としてですね、第3期作る段階で色々こういったことやってきました、色々やってきましたと説明は一旦させていただいてたところもあって、その上で、最終的に実績こうなりましたよという流れが今日だったものですから、少しその辺が伝わりにくかったというところもありましたので、そこについては次回以降、わかりやすくお伝えしていきたいと考えおります。 (会長) その他ということで、次第6ということになりますけども、事務局の方から何かございますか。 (事務局) 特にありません。 (会長) 一応皆さんからいかがですか。。 (委員) 私自身も誤解していたのかもしれないんですが、今日の議題に第2期の総括とありますが、確認すると、第3期はパブコメもやって3月末に策定されていますよね。今日の第2期の総括はどういう意味付けだったんですか。 (事務局) 元々第2期は、令和2年から令和6年まででありまして、5カ年事業でした。国も5か年にあったのを、デジタル田園都市国家構想交付金に2年前倒ししてシフトしてることから、岩見沢市も1年前倒しして作り変えている形になってます。それもあって、令和5年度の最終的にこうな
--------------	---

7 閉会	りましたよとお示ししているというのが今日の流れです。 (委員) 本質的には多分この総括があって分析考察があって、第3期を作っている手順ですよ。それはもう実際あったということですね。 (事務局) 昨年それをやっていて、今日はその1年前倒ししてやってるので、残り1年分が最終的にこういう結果でしたとお示ししているという流れです。 (委員) なるほど、わかりました。 (会長) 前回までの経緯も含めて、お伝えしていただければと思いますので、次回以降、事務局のみなさんにはよろしくお願いします。 (会長) 以上をもちまして、令和6年度の第1回岩見沢市総合戦略等推進委員会を終了させていただいてよろしいでしょうか。次回の開催については、また事務局と改めてご案内をさせていただきたいと思います。本日は、長時間にわたりましてご苦勞様でした。以上で終了いたします。
-------------	---